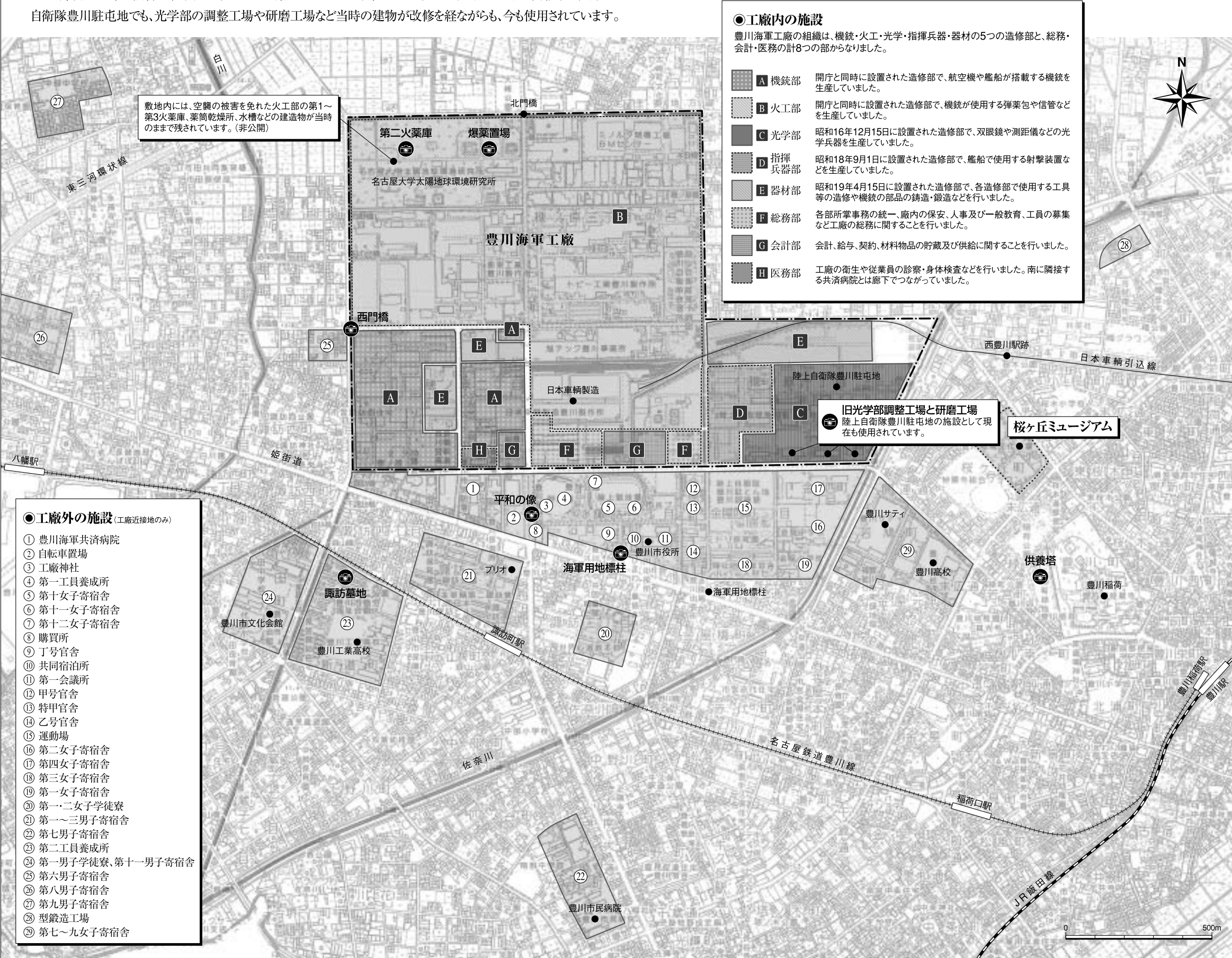


●豊川海軍工廠関連施設位置図

現在の工廠跡地には工場団地、陸上自衛隊豊川駐屯地、名古屋大学太陽地球環境研究所などがあり、兵器工場の面影はほとんど無くなっています。しかし、跡地の風景をよく観察してみると、まだ幾つか当時の建物やその名残りが散在しています。特に、名古屋大学太陽地球環境研究所の敷地内には、空襲の被害を免れた火工部の第一～三火薬庫・薬筒乾燥場・水槽などいくつかの建物が当時のままに残されています。火薬類を取り扱う施設の周囲には、爆発した時に被害を最小限にするために築かれた土塁が残されており、その大きさには目を見張ります。陸上自衛隊豊川駐屯地でも、光学部の調整工場や研磨工場など当時の建物が改修を経ながらも、今も使用されています。

街中に目を転じてみると、市役所付近に「海軍」と刻まれた用地標柱が何気ない光景の中に潜んでいます。また、工廠の敷地を区画した堀には「西門橋」「北門橋」という名称の橋が架かっています。この橋の名称は、かつて工廠にあった門の名称が今も使われているものです。



西門橋



海軍用地標柱



旧光学部調整工場と研磨工場



土塁



第二火薬庫



爆薬置場



平和の像



供養塔



諏訪墓地

レンタサイクルをご利用ください【無料】



豊川海軍工廠関連施設のご見学には、レンタサイクルが便利です。ご利用を希望される方は、桜ヶ丘ミュージアム事務所で受付をしてください。

※名古屋大学太陽地球環境研究所敷地内は許可なく入ることはできません。